

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	九州大学	整理番号	H02
プログラム名称	グリーンアジア国際戦略プログラム		
プログラム責任者	原田 明	プログラム コーディネーター	谷本 潤
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>本プログラムは5年目を迎え、プログラムの理念が学生に浸透して受け入れられ、全体として順調に計画が実施されている。研究室ローテーションについては学生への負担が依然として大きいようであるが、着実に実施されており、学生にとって良い経験となっている。引き続き、学生からの要望も考慮し、より良いものに仕上げていただきたい。参観した講義については、分散キャンパスの課題を考慮し遠隔講義システムを取り入れるなどの工夫がされているが、更なる改善に向けての取組が必要である。学生への経済的支援については、支援期間終了後の目途が十分には立っておらず、学生の応募者数にも影響しかねない状況である。本プログラムが我が国の大学院教育の新しいモデルとなるよう、更なる改善と努力をお願いしたい。</p> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムは、グリーン化と経済成長を両立したグリーンアジアの実現に資する理工系リーダーを養成することが目的であるが、プログラムの内容、実態が「グリーンアジア」というテーマとどのように関連しているのかが必ずしも明瞭でないように感じられる。そのため、グリーンアジアの特徴をより多くプログラムに取り入れ、充実したものにしていただきたい。 我が国の大学の世界的な評価を向上させるためにも、本プログラムの成果を英語で発信することを可能な限り推進していただきたい。 学生との意見交換では、プログラムの理念が学生に浸透し、受け入れられてきている様子がうかがえた。一方で、学生からは内容が詰め込みすぎであるとの意見も聞かれ、修士課程での研究室ローテーションを2研究室から1研究室に減らし、他の1研究室を博士後期課程に行ってはどうかとの要望があった。また、研究室ローテーションとインターンシップのアレンジを学生自身の研究と密接な関連のもとで行えるように適切な指導を希望する、との意見があった。 「実践英語」及び「アフタヌーンコロキウム」の講義を参観したが、前者は留学生のみの参加であり、教材「Academic English for Graduate Students」を用いたものであった。後者は、分散キャンパスを繋ぐ遠隔講義システムを取り入れた英語での講義であったが、遠隔地での学生も交えた討論の場になっていなかったことは残念であった。また、いずれの講義についても学生は受け身であり、講義形態に更なる工夫の余地がある。 支援期間終了後の学生への経済的支援については、学生募集の段階で将来的な奨励金の中断について伝えられており、結果として応募者が減少傾向にある。そのため、優秀な学生の獲得、とりわけ日本人学生に向けた今後の具体策を早急に検討する必要がある。また、専任教員の支援期間終了後の処遇についても議論を開始されたい。 プログラムの活力向上に向けて、プログラムに協力的な企業の参画を増やし、同時にインターンシップにより学生の企業等への就職率の向上にも努めていただきたい。 			